

みる つくる がたる

千葉県立美術館報

VOL. 10 NO.1

(通巻 40号)

昭和58年 7月20日発行

編集・発行人 高橋在久

〒 260

千葉市中央港1丁目10番1号

☎0472-42-8 3 1 1 (代表)

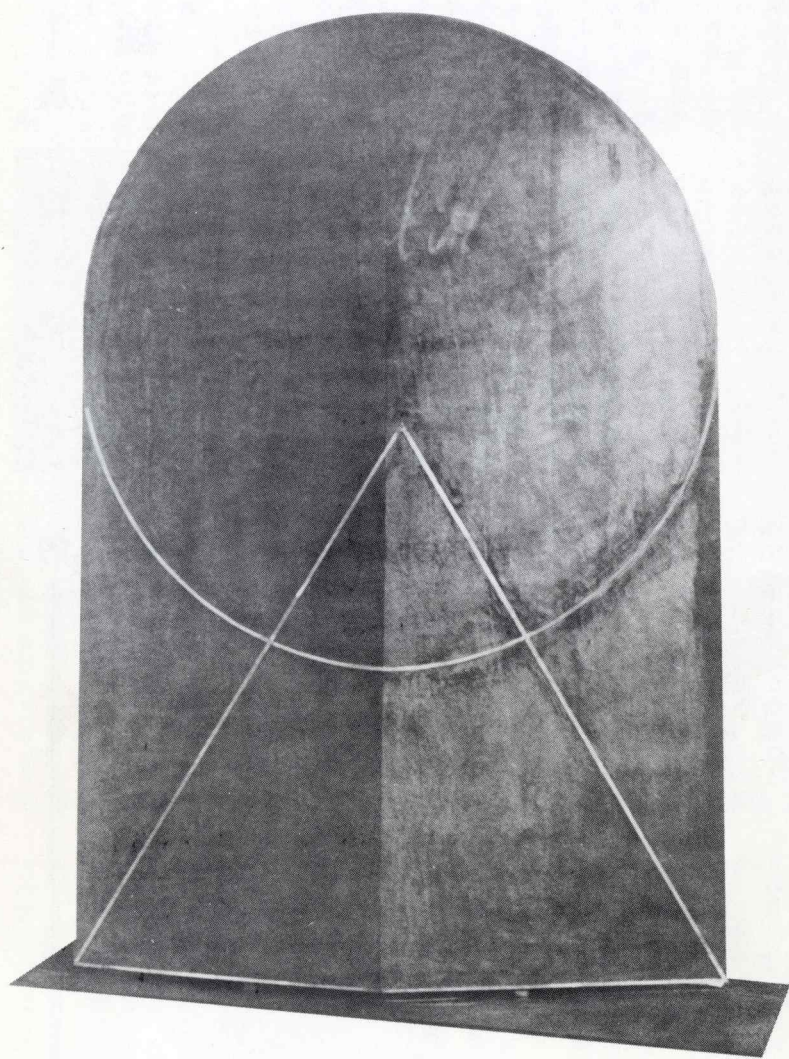
米林雄一氏(一九四二―)は、東京に生まれ、昭和三十九年に金沢芸術大学彫刻科卒業後、東京芸術大学大学院修了。現在、二期会に属し、東京芸術大学彫刻科講師。数多くの展覧会で受賞、現代彫刻界において注目される

若手作家のひとりである。

左の作品は、今年開かれた第十六回現代日本美術展において、千葉県立美術館賞に選ばれたもので、現在、本館に常設展示されている。

素材は南洋スギ科アガチス

材であるが、表面は黒鉛、つまり鉛筆の芯で塗りつぶし、一見すると金属的な感じを受ける。重量感のある作品で、計算されたバランスの上に、平面と直線が交錯した幾何学的な面白さがある。



米林雄一 「Circle and triangle」 1983

木・鉛筆・鉛 200×133×34cm 100kg

房総の美術家シリーズ 13

浅見喜舟展

書芸七〇年の歩み

七月一日(金)～二十八日(木)

本館は、今年度開設十年を

迎えるが、その間、本県にゆかりの深い美術家を中心に調査研究をすすめる、その紹介と顕彰を行っている。

本年度は「房総の美術家シリーズ13」として、墨の美を

追求し、本県の書の普及に尽力された浅見喜舟氏に焦点をあて、「浅見喜舟展——書芸七十年の歩み」を七月二十八日(木)まで開催している。

元来、文字は単なる伝達の手段として発生したが、各時代の要求や美的感覚からさまざまな筆法が生み出され、その美しさが競われ、現在の書道に至っている。本展では、氏の初期の代表作から今日に至るまでの作品約六十点を展示し、墨色の美、余白の美、結体の美、流動の美などを味わっていただくとともに、著書、手本など併せて展示し、書芸一筋に生きてきた氏の業績を讃え、七十年の歴史をふりかえる機会とした。

展覧会案内

教員を志す

浅見喜舟氏は、明治三十二年(一八九八)一月五日、群馬県神流村(現藤岡市)に、父福田徳治郎、母いちの四男として生まれた。本名は錦吾。

幼い頃より書が好きだった氏は教員を志し、尋常小学校准教員養成所に学ぶ。この間、朝倉石峰のもとで寝食を忘れて研鑽を積み、大正七年、群馬県新町尋常高等小学校准訓導になったのを振り出しに教育界の人となる。後、検定で尋常小学校本科正教員、中等学校教員の資格をとり、新潟県高田中学校教諭となる。この頃から、近代日本の書道界に大きな影響を及ぼした日下

部鳴鶴門下の木俣曲水に師事するようになり、昭和四年、千葉県師範学校に書道担任の教諭として赴任。そののも、曲水とともに書道教育の普及に努めた。

広範な趣味

氏は、長きにわたる七十年を書芸一筋に精進努力してきたが、反面、趣味の世界は広範囲にわたっている。

子供の頃から山、草木、昆虫など絵をかくことが好きだった氏は、新潟での生活で、佐野至心のもとで本格的に日本画を学んでいる。千葉に住むようになってからは、浜田坡牛に師事して俳句を詠むがその情感が読む者の心に伝わってくるような味わい深い句ばかりである。また、琵琶は武本錦桜に学ぶことにより、手・指・声の訓練をしたことは書作活動に生かされる面が多

内

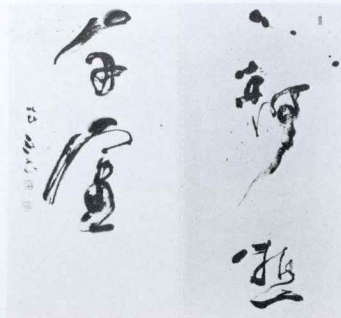
かったと述べている。その他スポーツを得意としたり、小鳥などの飼育法にも造詣が深く、あらゆる方面に眼を開き、心を寄せている。

本県での書道教育活動

昭和四年、千葉県師範学校に赴任以来、教育者として、戦後の千葉大学、和洋女子大学ほかで後進の指導にあたり、その教えを受けた者は万を越える。氏は、「私にとつての喜びは、教え子をとくさんもつたということ。彼等が私の教えたことをさらに広めてくれる。こんなうれしき喜びはない。」と語っている。また、県書道協会、書星会などの書道研究団体や県美術会などを創設し、書の道「を求め人たちのために道を開き、その温厚な人柄と熱心な指導によって、書道の振興に尽力するとともに、広く県下美術界の発展に貢献している。今年八十五才になった現在も、県美術会会長、太玄会名誉会長、日本書写技能検定会長、本館協議会議長などの要職にあり、多忙な中にも日々精進をかさね、常に第一線で意欲的な創作活動を続けている。

「一静抵千金」

昭和五十一年作

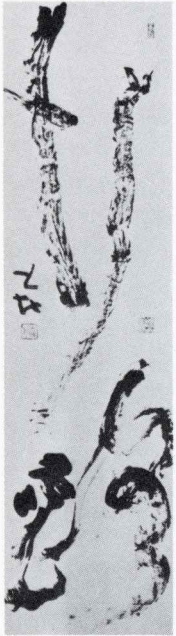


本展の開催に伴い、去る七月十日(日)、話題提供者に浅見喜舟氏を迎えて、第二回「美術を語る会」を行なった。

浅見氏は、「書というもの」と題して、教育を志すようになった経緯から、小学校准、正教員としての群馬の新町時代、中等学校教員を目指した前橋時代、日本画に打ち込んだ新潟の高田時代、そして書一筋にと決心した千葉時代と各時代の苦労話などをエピソードをまじえながら回想された。

また、出品作品については人のやることは自分にも出来るはずと葉書大用紙に「いろ

「行路」 昭和五十四年作



は」を微字で二百回以上書いたことや、「千字文」、「蘭亭叙」などの大作は、一気呵成に仕上げるために自分の体力テストとしているという話に、氏の自己に対する厳しさをみた。



常設 収蔵作品展

本年度の収蔵作品展は、三つの展示室のうち、第一、第二展示室において、五月三十一日(火)〜八月二十八日(日)、十二月二日(金)〜一月八日(日)の二期にわたり、日本近代美術の流れというテーマで、日本画、洋画、彫塑、工芸の四つの分野から、収蔵作品を展示する。第三室では、五月二十四日(火)〜六月二十六日(日)、八月二日(火)〜八月二十八日(日)、十二月二日(金)〜一月八日(日)の三期

にわたり、素描画、版画、水彩画及び収蔵作家を紹介するコーナーを順次設け、様々な美の世界に焦点をあて、広く収蔵作品を紹介する。

〈第一期・第二展示室〉 主な展示作家の紹介

まず、洋画ではわが国で最初の本格的な洋風美術教育が行われた工部美術学校に、画学科教師として、イタリアから招かれたアントニオ・フォンタネージ(一八八一〜一八八三)があげられる。そして、ここで学んだ洋画家に、浅井忠(一八五九〜一九二七)、松岡寿(一八三三〜一九四四)らがあり、後にこれらの画家は最初の洋風美術団体である明治美術会を結成し、優れた指導者として洋画界の発展に尽した。

その他、黒田清輝の天真道場で学び、東京美術学校長となつて後進の育成に尽力した和田英作(一八四一〜一九一七)、浅井忠に学び、日本水彩画会、二科会などの創立に参加、また、一水会を結成し、のち日展で活躍した石井柏亭(一八二二〜一九一七)、草土社にいて岸田劉生に師事し、強い影響をうけた椿貞雄(一八六六〜一九五七)、円熟した作風で昭和の画壇を二分した安井曾太郎(一八八六〜一九五七)と梅

原龍三郎(一八八一)、「虹」の作家として次々と意欲的な作品を発表し、世界各国の展覧会で受賞を重ねている鏝嚙らの作品を展示する。

日本画では、大正の初めに今村紫紅、速水御舟らと共に、赤燿会を結成、院展で活躍した富取風堂(一八三三〜一九一三)、昭和の初め、山本丘人らと創造美術を結成して日本画の近代的美術を追求し、現在では創画会で主要な位置にある吉岡堅二(一八六六〜)、主に日展に出品し、現代の日本画壇を代表する作家のひとりである東山魁夷(一八七九〜)らの作品を紹介する。

彫塑では、明治期の作家として小倉惣次郎(一八四三〜一九一三)があげられる。工部美術学校



石井柏亭「聖フランチェスコ寺院」

に彫刻科教師として、イタリアから招かれたラグーザに洋風彫刻を学び、門下から新海竹太郎や北村四海ら優れた彫刻家を出した。その他、現在日展で活躍する大須賀力(一八六六〜)、新しい具象彫刻を追求している鈴木実(一九〇一〜)らの作品を紹介する。

工芸では、わが国の近代美術工芸界の発展に寄与した鍔金作家、香取秀真(一八四九〜一九四六)と津田信夫(一八七五〜一九四六)をはじめ、板谷波山に師事し、日展で活躍した陶芸作家の宮之原謙(一九〇一〜一九七九)、岩田藤七に師事し、国内外のガラス展に日本の伝統美を表現した華麗な作品を発表している藤田喬平(一九二二〜)らの作品を展示する。

〈第三期〉

素描画コーナー 素描画は美術の基礎となるもので、主に形や明暗に重点をおき、鉛筆やペン、コンテなどで描かれ、作家の芸術を知る上で高い評価がなされている。このコーナーでは、浅井忠、安井曾太郎、鶴田吾郎(一八四九〜一九二六)ら、明治から昭和にいたるまでの作家をとりあげ、各作家の人物や風景における輪郭、明暗、動勢などのとらえ方を

鑑賞する場とした。

版画コーナー 版画には、木版、銅版、石版、シルクスクリンなど様々な技法があるが、このコーナーでは、浜口陽三(一八八九〜)、池田満寿夫(一九〇四〜)ら国際的に活躍している作家を中心にとりあげ、その多様な表現を紹介する。また、日本画家、彫刻家にとっても、版画のもつ表現の可能性は魅力的なものである。東山魁夷、木内克(一九三三〜一九七九)らの作品を展示し、版画技法を通してそこに自己の特性をいかに反映させているかをみる機会とした。

水彩画コーナー 水彩絵具には、透明水彩、不透明水彩、水性アクリルなどがある。このコーナーでは、浅井忠、石井柏亭、中西利雄(一九〇一〜一九八六)、三橋兄弟治(一九二二〜)らの作品により、時代の変遷にともなう各絵具の技法による表現や油彩画とは異なつた趣きを味わう機会とした。

収蔵作家の紹介コーナー：今回は香取秀真をとりあげ、作品のほか資料類、調査ノート及び書画を展示し、鍔金作家としてのみならず、金工史家、アラギ派歌人として活躍した秀真の業績の一端を紹介する。

秋・新春の特別展 準備すすむ

日本の洋画とフランス

昭和五十八年九月三日(土)十月十二日(水)

日本近代洋画の展開を考える上でフランスとのかわり深いものがあります。

十九世紀以降のヨーロッパ美術の中心はフランスであり、明治二十六年(一八九三)パリから帰国した黒田清輝、久米桂一郎の外光派風の明るい画風は、当時の日本洋画界に大きな影響を与えると共に、ひとつの転期をもたらしました。以後、ヨーロッパ美術の摂取はフランスを中心に積極的に行われ、次々と新しい芸術思潮の紹介もなされました。日本の洋画家には、文献や複製を通じて学ぶものほか、直接フランスに渡るものも多く、彼等は後期印象派、フォービズム、キュレービズム、シュールレアリスムなどの影響を受けながら自己

の芸術活動を展開し、日本近代洋画の形成に主要な役割を果たしました。

本展では、明治から昭和前期にフランスに渡った洋画家に重点をおき、滞欧作を中心に展観するほか、古賀春江、万鉄五郎のように国内においてヨーロッパ美術の新思潮に深い理解を示した洋画家の作品にも焦点をあて展観します。そしてこれら洋画家とフランスとのかわりを通じて日本の近代洋画史を振りかえることにしました。

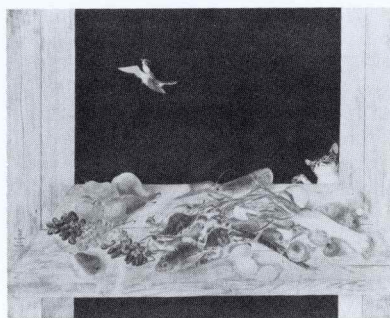
〔内容〕黒田清輝、久米桂一郎、鹿子木孟郎、安井曾太郎

浅井忠記念賞展

昭和五十九年三月十四日(土)三月二十二日(水)

本館は、今年度開設十年を迎えます。開館以来、近代美術館及び地域の美術館として、「みる・かたる・つくる」の三つのテーマを掲げて、総合的な美術館活動を目指しています。この間、日本近代洋画史上で先駆的な役割を果たした本県出身の洋画家浅井忠の画業の顕彰に努めてきました。

藤田 嗣治
「猫のいる静物」



梅原龍三郎、中川紀元、里見勝藏、前田寛治、佐伯祐三、黒田重太郎、東郷青児、林武藤田嗣治、福沢一郎など約五〇作家一〇〇点。

本館開設十年記念事業として、第一部では、浅井忠記念賞を設定し、全国公募による秀作に賞を贈り、その受賞・入選の作品を展示し、現代美術の振興に資するとともに、第二部として、浅井忠の秀作を展観し、その業績を回顧し認識する機会といたく、現在諸準備を進めております。

第一部の公募作品について募集要項は全国の関係者あてに配布しましたが、左記に要点を抜粋します。

応募資格 出身県、経歴、年齢を問いません。

応募作品 油彩画、水彩画、版画等の洋画系の平面作品で、リアリズムの追求を主題にした公募展未発表の作品。一人一点とし、一点の大きさは、二六〇×一九四センチ(二〇〇号)以内。

搬入 昭和五十八年十一月二十八日(金)から十二月五日(月)までの、毎日午前十時から午後四時までの間に千葉県立美術館に搬入してください。出品手数料は無料。

審査員 乾由明、植村鷹千代、陰里鐵郎、加藤貞雄、嘉門安雄、河北倫明、桑原住雄、田中穰、中村傳三郎、原田平作、本間正義(五十音順)

賞及び入選 浅井忠記念賞(大賞)一点 一〇〇万円。優秀賞三点 各五〇万円。ただし、これらの受賞作品は、当館の所有となります。

入選作の点数は未定です。

審査結果 昭和五十八年十二月十五日(木)午後二時に掲示します。応募者には、ハガ

キで通知します。

搬出 選外作品は十二月十八日(日)から一月三十一日(月)まで。入選作品は二月二十五日(土)から三月五日(月)まで。

時間は共に午前十時から午後四時まで。年末年始のみ休みます。

問い合わせ先 当館学芸課まで。力作をお待ちいたします。

入場料

一般五百円(三百円)、大・高生三百円(二百円)、中・小学生二百円(七十円)

(内は20名以上の団体料金。なお、学校教育とのかかわりから学校団体で利用する場合は、高校生七十円、小・中学生五十円になります。ただし、次の該当者は入場料が免除になります。

1 身体障害者手帳配布対象者(第一種身体障害者については介護者も免除)

2 療育手帳配布対象者(介護者も免除)

3 千葉県発行「長寿のしるべ」配布対象者

・開館時間 午前9時～午後4時30分(ただし、特別展会場の入場は4時まで)

・月曜日休館(ただし、10月10日は開館し、翌日休館)

・月曜日休館(ただし、10月10日は開館し、翌日休館)

本館では「みる・かたる・つくる」活動の一環として美術に親しみながら、美術に関する理解を深め、その魅力にふれることのできる美術館夏季大学を開催してきた。

今回は、日本画と彫刻の作家の方々にそれぞれ芸術観を語ってもらうとともに、わが国の洋画について、その原点と現代の動向に焦点をあてて開催する。

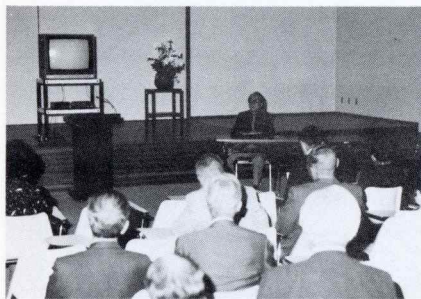
- 一、主催 千葉県立美術館
- 二、後援 千葉県立美術館 館友の会
- 三、場所 千葉県立美術館 館講堂
- 四、期日 昭和58年7月29日(金)・30日(土)
- 五、時間 第一日、午前9時半～10時受付 午後3時15分まで 第二日、午前10時15分～午後3時半
- 六、受講料 無料
- 七、内容 第一日午前 講師 田中横氏(美術評論家)

第7回 美術館夏季大学

- ・テーマ 「日本洋画の原点をめぐって」
- ・講師 長谷川昂氏(彫刻家)
- ・テーマ 「彫刻と私」
- ・講師 岩崎巴人氏(日本画家)
- ・テーマ 「日本画と私」
- ・講師 植村鷹千代氏(美術評論家)
- ・テーマ 「現代洋画の動向」
- ・募集人員 二百名
- ・当日 会場受付にてその他
- ・両日の昼休みの時間を利用して、TBS映画「美を求めて」より、次の16ミリ映画を上映する予定。
- ・第一日「パリと日本の美術」
- ・第二日「近代日本画の流れ」

今年度から、「千葉県放送セミナー」

本年度第一回「千葉県放送セミナー」が去る六月十八日(土)、午後2時より、本館講堂にて行われた。この「千葉県放送セミナー」は、NHK教育テレビ「日曜美術館」のビデオを視聴しながら、年10回のスクーリングによって美術について更に理解を深めようとするもので、本年より本館で開催することになった。



東京国立近代美術館で開かれた「ピカソ展」の展示作品をもとに、改めてピカソの人と芸術について学習した。ビデオ視聴後の話し合いでは、特に、ピカソの表現がなぜ、あのように大きな変化を見せたのか。また、ピカソがよくモチーフとした子どもや女性像についての質問が出され、田中横講師(美術評論家)の熱い解説があった。

本年度の10回のスクーリングの予定は次の通りである。

- 第1回 6月18日(土)午後2時
- 第2回 7月16日(土) "
- 第3回 8月6日(土) "
- 第4回 9月10日(土) "
- 第5回 10月8日(土) "
- 第6回 10月29日(土) "
- 第7回 11月19日(土) "
- 第8回 12月10日(土) "
- 第9回 1月28日(土) "
- 第10回 2月18日(土) "
- ・講師 田中横氏ほか
- (なお、期日については、やむをえず変更する場合があります。)
- また、必ずしも、第1回から継続して全部を受講しなくても結構ですので、お気軽にご参加ください。
- ・受講料無料

58年度 美術館研究員決まる

美術館の資料整備と教育普及活動に関する調査・研究について協力を得ることを目的として、学識経験者による研究員会が組織されているが、本年度は、次の方々に委嘱した。

- 池田 伊予(千葉市立末広中学校教諭)
- 石倉 総子(千葉市立花園中学校教諭)
- 大木 貞夫(八日市場市立須賀小学校教頭)
- 香取 義春(佐原市立福田小学校教頭)
- 佐藤 修(佐原市立佐原中学校教諭)
- 高木 正(流山市西初石小学校教頭)
- 田辺 宏(勝浦市立興津中学校教諭)
- 利倉 栄子(千葉市立天戸中学校教諭)
- 原田 久徳(千葉市立新宿中学校教諭)
- 南 隆一(横芝町立横芝中学校教諭)

* * *

◎陶芸入門講座

期日 10月25・26・27・28日
11月24日・12月1日

講師 羽二生隆宏氏
申込締切 10月11日

◎洋画入門講座（第二期）

期日 9月3・4・24・25日
10月8・9日

講師 根岸茂行氏
申込締切 8月20日

◎七宝焼入門講座

期日 10月2・3日
申込締切 9月17日

講師 長南光男氏
申込締切 9月17日

◎デッサン入門講座（第二期）

期日 8月23・24日
申込締切 8月9日

講師 羽生智樹氏
申込締切 8月9日

◎版画入門講座

期日 8月8・14日
申込締切 7月25日

講師 深沢幸雄氏
申込締切 7月25日

◎てん刻入門講座（第一期）

期日 8月25・26日
申込締切 7月31日

講師 霊園鴻甫氏
申込締切 7月31日

◎書芸入門講座（第一期）

期日 11月1・2・10・11
・29・30

講師 福田冀州氏
申込締切 10月18日

△受講したい方は、往復はがきに、希望講座名、住所、氏名、年令、職業、電話番号、友の会会員の場合は会員番号を記入のうえ、締切日までに美術館学芸課普及班までお申し込み下さい。なお応募者多数の時は抽選になります。

団体展（7月～9月）

●第15回千葉市水墨画同好会連合会展
7月19日～7月31日

●日中平和友好条約五周年記念日中書道展覧会
8月2日～8月7日

ごあんない

●第3回千葉サンケイ現代洋画展
8月2日～8月14日

●第12回写真千葉県展
8月9日～8月21日

●新世紀美術協会千葉支部展
8月16日～8月21日

●第11回千葉市教職員美術展
8月16日～8月28日

●第13回いっふ会彫刻展
8月16日～8月28日

●子供と教師の作品展
8月16日～8月28日

●第3回日本春秋書院千葉県書道連盟展
8月23日～8月28日

●静雅書道会第29回小中学部千葉地区展
8月30日～9月4日

●龍峽書道会千葉県人展
8月30日～9月4日

●第2回刻字千葉展
8月30日～9月4日

●第16回千葉県高等学校合同写真展
8月30日～9月4日

●第23回白扇書道会展
9月6日～9月11日

●ファンシー洋画展
9月13日～9月18日

●第10回文化書道千葉県連合会公募展覧会
9月13日～9月18日

●第13回新構造千葉支部展
9月13日～9月18日

●千葉83展
9月20日～9月25日

●第33回千葉デザイン展
9月27日～10月2日

●第30回千葉県勤労者美術展
9月27日～10月2日

●二科会写真部第3回千葉支部展
9月27日～10月2日

職員異動

昭和58年4月1日付けで次の職員の異動がありました。

◆退職者

松本 衛

◆転出者

安増 順（副館長→県立柏高
等学校校長）

田辺正憲（庶務課→土木部宮
繕課）

高木 正（学芸課→流山市立
西初石小学校教頭）

宮内速男（学芸課→県立上総
博物館）

◆転入者

平野 馨（県立大根博物館
長→副館長）

忍足正雄（都市部建築指導課
↓庶務課）

久保木良（教育庁文化課→学
芸課）

足立 堯（町立九十九里中
学校長→学芸課）

日誌抄

4月

1 辞令交付、離着任式

13 県立美術館博物館館長
会議

5月

30 浅井忠研究会

6月

16 美術館友の会総会

17 県博物館協会役員会

7月

4 洋画入門講座始まる。

11 日本画入門講座始まる

18 美術を語る会、千葉県
放送セミナー

7月

21 陶芸入門講座始まる

23 友の会美術鑑賞の旅

10月

1 浅見喜舟展始まる（28
日まで）

6 書芸研修講座始まる

7 美術館資料審査委員会

10 美術を語る会

青木滋芳氏 去る四月十七日午後二時二十六分、肝臓ガンのため千葉大学附属病院で逝去、六十八歳。染織家、日展評議員、県美術会常任理事。大正三年千葉市に生まれ、千葉中学校時代堀江正章に学び、東京美術学校卒。広川松五郎、和田三造に師事。昭和